

ある朝のでさごと

奈美恵は、中学校への入学をきっかけにスマートフォンを買つてもらつた。奈美恵の仲よしの三人の友達も、皆、スマートフォンを持つていて、学校から家に帰つてからも、スマートフォンを通して四人でやり取りをすることが多くなつていつた。短い言葉のやり取りは途切れることなく続き、気がつけば真夜中になつてゐるといふことも、しばしばだつた。

朝から夜遅くまでスマートフォンを操作してゐる生活が続いていくうちに、奈美恵は片時もスマートフォンを離さずにはいられなくなつていつた。さすがに入浴中は部屋に置いておくのだが、そうすると入浴中ずっとスマートフォンのことが気になつてしまふのだ。友達へのメッセージを入力しながら家のなかを歩いていて、弟とぶつかったこともある。「痛いなあ。お姉ちゃん、歩きながらは禁止だよ。」

「はい、はい。急いでいるの。しかたないでしょ。」

すると、お母さんが厳しい口調で言つた。

「奈美恵、いい加減にしなさい。スマートフォンを買ってあげた時、お母さんとした約束を忘れたの。夜遅くまで使わないということ、それに、安全に気をつけて使うつて約束。」「分かっているから。」

奈美恵は全く上の空だつた。

ある休みの日。

その日は、仲よしの三人と遊園地に行く約束をしていた。前の晩のスマートフォンでの

ある朝のできごと

やり取りは、待ち合わせ場所や着ていく服、乗るアトラクションの順番などの話題で盛り上がり、いつもよりさらに遅い時間まで起きていた。

そのせいもあって、奈美恵は予定より三十分も遅く目が覚めた。待ち合わせの時間にま

にあうように慌てて支度をし、自転車で駅に向かった。

駅に着いた奈美恵は、駐輪場に自転車をとめた。どうにか、ホームでの待ち合わせ時間にはまにあいそうだ。奈美恵は少しほっとして、イヤフォンで好きな音楽を聴きながら、歩き始めた。スマートフォンにメッセージが届いた。他の三人はもうホームにしているようだ。

わたしも、もうすぐ着くよ。

早く早く！

先に行つちやうぞ。

改札に続く階段を上りながら、奈美恵はメッセージを入力した。行楽シーズンということもあり、駅は家族連れや若者たちでいつもより混んでいた。すぐに返信が届く。

改札を通った奈美恵は、ホームに続く階段を慌てて降りながら、急いで三人への返事を入力し始めた。すると、その階段の真ん中あたりで、突然、自分の体が宙に浮いたように感じた。階段を踏み外してしまったのだ。（あつ。）と思つた瞬間にには、体が階段を転がり始めた。奈美恵には、周りの光景がスローモーションのように見えたが、抵抗するすべはなかった。誰か他の人もぶつかった気がする。階段の下で横たわる奈美恵が顔を上げると、駆け寄つてくる駅員と三人の友達が見えた。

歩きスマホ等による事故の事例

(東京消防庁のまとめによる)

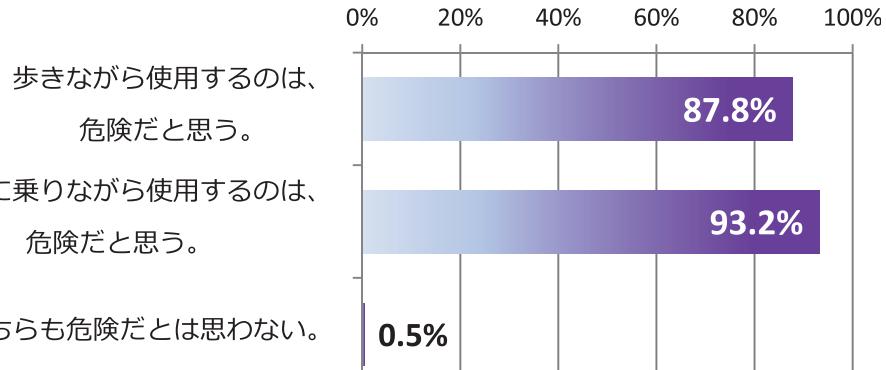
- ◆ 駅のホームで携帯電話を操作しながら歩行中、線路上へ誤って転落し受傷したもの。なお、接触はしなかったが、直後に電車の進入があった。
(10歳 男性)
- ◆ 携帯電話を操作しながら校舎内の階段を降りていたところ、足を踏み外し5～6段程度転落、受傷したもの。
(16歳 女性)
- ◆ 自転車で走行中、スマートフォンを操作しながら運転していたため、高さ1メートルの道路脇の用水路に転落したもの。
(16歳 男性)
- ◆ 携帯電話を操作しながら下り坂を自転車で走行中、ガードレールに気付かず衝突し受傷したもの。
(19歳 男性)
- ◆ 駅構内をスマートフォンを操作しながら歩行中、正面から歩いて来た歩行者とぶつかり、後ろ向きに転倒し、頭と腰を受傷したもの。
(43歳 女性)
- ◆ 携帯電話を扱いながら歩行中、ポールに躊躇転倒し、ブロック角で顔面を受傷したもの。
(44歳 男性)
- ◆ 携帯電話を使用しながら駅を歩行中に、誤って階段約20段を転落し、全身を受傷したもの。
(59歳 女性)
- ◆ 携帯電話を操作しながら歩行中に、電柱と接触し顔面を受傷したものの。
(63歳 男性)
- ◆ 歩行中に携帯電話を見ていた女性に衝突され、転倒し受傷したもの。
(82歳 女性)

〔東京消防庁〕

インターネットモニターによるアンケート調査結果より

〔満18歳以上の男女400名を対象に、平成26年4月28日から5月7日に実施〕

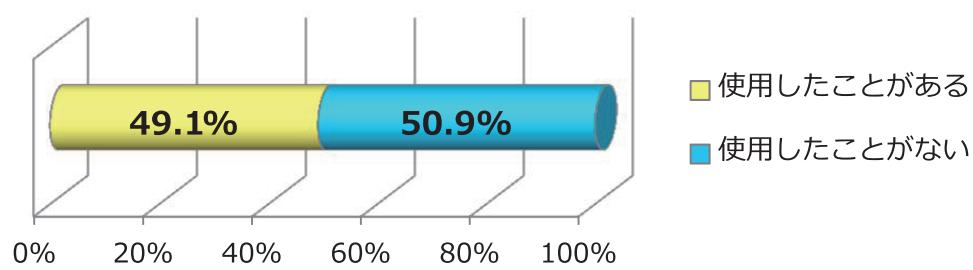
「歩きながらや自転車に乗りながらスマートフォンや携帯電話
(PHSを含む。)等を使用することは、危険だと思いますか。」



なのに

「あなたは、歩きながらや自転車に乗りながらスマートフォンや携帯電話
(PHSを含む。)等を使用したことがありますか。」

(吉田
修
作)



なぜ？

【参考資料】東京消防庁ホームページ